

奈良県立青翔中学校高等学校 中期計画

【中学校高等学校用】

対象期間		令和4年4月～令和7年3月
本校の使命（スクール・ミッション）		中高一貫6年間を通じた理数教育の推進により、地域に貢献するとともに、科学技術創造立国たる日本の未来を牽引するサイエンスイノベーターを創出します。
教育方針 （スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	自然科学の分野で社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下のような生徒を求めます。  1 科学的な現象を探究しようとする意欲をもち、物事を論理的に粘り強く考えるための土台となる数学が好きな生徒 2 将来、科学研究活動を通して社会に役立ちたいと願い、実験・観察や理科に興味・関心をもち、自ら進んで課題の発見や解決に努めようとする生徒 3 基本的なコミュニケーション力を身に付け、仲間と協働できる生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	中高一貫6年間を通じた理数教育を、以下のように推進します。  1 全校体制での探究的な学びの充実 2 STEAM教育の視点に立った教科等横断的取組 3 SDGsを活用した地域課題を解決するための自治体・企業等との連携 4 中高一貫理数教育の特色を生かした体系的カリキュラムの編成 5 高次の研究を実現させるための国内外の大学等との継続的な連携 6 異学年集団の学びによる科学的リテラシーの習得
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	サイエンスイノベーターとして必要となる、以下の資質・能力の育成を目指します。  1 課題発見・解決・設定に必要な創造的思考力 2 科学的根拠に基づいた総合的判断力 3 多様な考え方を尊重しチームで協働するコミュニケーション能力

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標	令和6年度末目標値等
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	基礎的な体力の向上	各自の体力の向上 スポーツテストのA・B判定が40%以上
	望ましい生活習慣の確立	朝食摂取率が90%以上 睡眠時間6時間以上が80%以上
	自身の健康管理	歯科検診などの治療勧告後の受診率が50%以上
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートの「授業に学ぶ楽しさを感じますか」という質問について、肯定的な回答が70%以上 生徒の意識調査の「自ら取り組む姿勢（自主性、やる気、挑戦心）」が身に付いたという回答が90%以上
	学習意欲の向上	ジェネリックスキルテストにおける学習意欲に関する項目の得点が10%（令和4年度を基準とする）向上
	探究的な学びの推進による、主体性、独創性の養成	生徒の自主性、独創性が身に付いたという回答が、ともに80%以上
	ICTを活用した授業改善	教員の情報活用指導力の取得が80%以上
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実と産業界との連携	中学校の職場体験および高校のインターンシップ（教育研究所主催等）への参加で「よかった」という回答が80%以上、職場見学や企業の研究開発等に関わる講演会の実施で「よかった」という回答が80%以上
	キャリア教育の推進	社会への参画を見据えた、大学や企業での研修・共同研究の実施 筆記試験だけにたよらない総合型・学校推薦型選抜で進学する生徒の割合を20%以上
	ジェネリックスキルの伸長	リテラシー（情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力）とコンピテンシー（対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力）の上昇した生徒70%以上
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域の課題を発見し、解決する力の養成	生徒の課題発見力、課題解決力が身に付いたという回答がともに80%以上
	海外姉妹校等との協力による、国際性の養成	生徒の国際性が身に付いたという回答が80%以上
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	発達段階に応じた人権教育の推進	中高6年間を通じ、発達段階に応じた体系的な指導計画やプログラムに基づくLHRや行事を実施
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	「こころといじめのアンケート」の結果に基づいて個別面談が必要な生徒との面談（年間2回以上）の実施 職員間の情報共有の推進
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用	対象となる生徒の状況の全職員による共有と、対象生徒の保護者との個別面談（年間2回以上）の実施